



## 資源を大切に使い循環させる仕組みを、生活者とともに考える

### 地域で取り組むいばらきエコ・ネットワーク

＜研究・活動名＞地域連携で生み出すいばらきエコ・ネットワーク STEP3 ー生活者が生み育てる グッドプラクティスの発信 ー

＜代表者 / 団体＞茨城大学地球変動適応科学研究機関 (ICAS) 准教授 田村 誠 / 城里町商工会 女性部、筑西市商工会エコの木プロジェクト部会

「知 (= 知る)」、「連 (= 連携)」、「創 (= 創る)」、「展 (= 広げる)」をキーワードに、地域住民が主体となって地域活性化と環境保全活動とが両立する仕組み構築を目的として、これまでに得られた成果や教訓をグッドプラクティスとして県内外に発信し、より大きなエコ・コミュニティ“いばらき自然エネルギーネットワーク”を設立し、大学を媒介に地域組織の連携により地域活性化と環境保全を両立する仕組みづくりを目指しています。(2009年7月より半年に一回の審査を受けて継続中)

### 貴重な鳥の生育地域で、コモンスの再生に取り組む

＜研究・活動名＞新潟県佐渡市トキ舞う加茂湖の水辺再生プロジェクト phase2

＜代表者 / 団体＞九州大学大学院工学研究院環境都市部門教授 島谷幸宏 / 佐渡島加茂湖水系再生研究所

トキの野生復帰に取り組む新潟県佐渡市では、多様な生き物が棲息可能な環境整備が重要な課題となっています。本活動の秋津地区「ごごめのいり」は、加茂湖のなかでも特に水の流れが悪く、漂着ゴミ被害が問題となっていました。この地区のヨシ原再生を継続するとともに、より多くの人びとが加茂湖を訪れるためのしかけづくり、水辺の維持管理のための仕組みづくり、環境資源活用の工夫、多様な主体の協働の推進、子どもたちの社会参画などの研究と実践を進めています。(環境省等主催 eco japan cup 2012 市民が創る環境のまち“元気大賞”入賞)(2010年7月より半年に一回の審査を受けて継続中)

### 女性生活者が取り組む環境・社会貢献活動

＜研究・活動名＞女性生活者による3R活動による地域貢献について

＜代表者 / 団体＞大阪市立大学大学院創造都市研究科准教授 永田潤子 / NPO 法人中部リサイクル運動市民の会

女性生活者による3R活動を通じた環境問題の解決を推進するために、①社会に働きかけるコンセプトと個人へのメッセージからのアプローチ検討と実証実験 ②ビジネスモデルとして持続可能性を担保する仕組みに関する研究 ③百貨店やショッピングモール等に回収Boxを設置するなど利便性の確保策による推進に関する研究と実践を実施しました。(2012年6月終了)



写真（島谷プロジェクト）  
水路の整備（左上）  
整備作業前（右上）  
整備作業後（左下）  
ヨシ原の清掃（右下）



写真（田村プロジェクト）  
夏の電力ピークカットのための  
「みどりのカーテン」（左）  
非常電源にもなるソーラーバイク  
（右2点）



## (第2領域 つづき)

### 2R 活動の普及促進に関する研究

＜研究・活動名＞利用者視点から見た 2R（Reduce・Reuse）の普及促進に関する実証研究

～地域共創型の社会システムの実現を目指して～

＜代表者 / 団体＞早稲田大学環境総合研究センター准教授 小野田弘士 / 生活協同組合コープおおいた、（社）日本自動車リサイクル部品協議会

生活者のライフサイクルが“環境配慮型”に転換されつつある中、利用者に焦点をあてた活動を展開しています。とりわけ、自動車リサイクル部品の活用促進を通じて、Reuseに関する共通認識を地域生協や関連するステークホルダーと一体となって醸成することを目的に、早稲田大学で培われた環境配慮情報提供システムを核とした地域共創型の社会システムの実現を目指し、2R活動の深化、特に影響力の強い自動車関連の取り組みを通じた社会システムモデル化の達成に向けた取り組みを実施しました。（2012年6月終了）

### 貴重な鳥の生育地域で、地域活性化に取り組む

＜研究・活動名＞やんばる国頭の森の水路再生・棚田ビオトープ整備による地域活性化プロジェクト

＜代表者 / 団体＞東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授 桑子敏雄 / NPO 法人 国頭ツーリズム協会

国頭村にある「やんばるの森」は、生物多様性の保全と利活用の問題で注目され続けており、「森林地域ゾーニング計画」で情報が不足していた文化遺産を調査し、「宇嘉地区の水路と棚田」の再生・活用を行うことで、ゾーニング計画の理念を実践し、地域活性化を図っています。全国的にも注目を浴びるエリアでの研究・活動であり、地域との強力な関係をテコに、企業の森の管理やCSR活動にも生かせる研究・活動が行われ、ゾーニングなどに生かされつつあります。（環境省等主催 eco japan cup 2012 市民が創る環境のまち“元気大賞”入賞）（2012年6月終了）



W-B-R-I-D-G-E (宇嘉桐田大学・橋アリザストン) 研究プロジェクト

### 宇嘉桐田水路散策 & 田植え体験

宇嘉桐田再生友の会主催

**参加歓迎  
参加費なし!**

昭和31年、国領村宇嘉区の山に、約30haの棚田と水路が整備され、昭和60年まで自然米が栽培されていました。2本の水路橋がある人工で作られた水路と海のみえる棚田は、宇嘉の人々にとって無量産もつらやむ田舎の風景として珍重されています。17年前には小学校の授業で棚田の一部を復元し、3年間の米を作っていました。今回は、再生した水路から水をひいて作ったばかりの2枚の棚田で、みんなで田植えを体験します。田植えの前に森の中の水路を歩きます。

- 日 時：5月26日(土) 午後1時20分～
- 集合場所：宇嘉共同店前
- スケジュール
  - 午後1:30 棚田水路散策
  - 2:30 田植え
  - 3:30 交流会(軽食をとりながら)

● 問い合わせ先 ●  
 宇嘉区長 宮城幸一 090-1947-3668 (携帯線)  
 宇嘉区長 宮城幸一 リズム委員会 (やんばる守りの森内) 0980-41-1970

※この活動は、W-B-R-I-D-G-E (宇嘉桐田大学・橋アリザストン) 研究プロジェクトの支援で行っています。



写真 上：(桑子プロジェクト)  
 水路の探索(左)  
 イベントポスター(右上)  
 棚田田植え体験(右下)

中：(小野田プロジェクト)  
 環境配慮宣言車ステッカー

下：(永田プロジェクト)  
 エコロジーセンター「Re 創庫」(左)  
 古着回収ボックス(右)



古着回収ボックス

回収できるもの

- 洋服・洋服
- 靴
- タオル
- 帽子

回収できないもの

- 靴下
- 靴擦れ
- 破損品
- 汚損品
- その他

サイズ：幅800×奥行780×高さ1500mm  
 重量：約10kg  
 カラー：白・黒・緑  
 材質：スチール・樹脂



## 企業や生活者がともに自然と共生していく方法を考える

「企業 CSR と地域交流」(p5)

「熱帯ゴム園周辺の森の再生」(p5)

「農と食と緑の学校」(p5)

新規プロジェクト

「被災地と首都圏の女性の交流による、復興促進」(p17)

## 資源を大切に使い循環させる仕組みを生活者とともに考える

「いばらきエコ・ネットワーク」(p7)

「トキの生育環境保全」(p7)

「女性生活者による3R活動による地域貢献」(p7)

「利用者視点から見た2R (Reduce, Reuse) の普及」(p7)

「やんばるの森」(p9)

新規プロジェクト

「豊富な水資源活用による地域活性化」(p17)

「世界遺産(五箇山)集落における植物資源循環」(p17)

「10万馬力新宿サイダープロジェクト」(p17)



## 環境保全の知見や手法を世界にひろげ、次世代とともに学ぶ方法を考える

「じよんのびプロジェクト」(p15)

「大震災を考えるプロジェクト」(p15)

「日本とマレーシアの国際交流による環境意識の育成」(p15)

「島の歴史、文化と環境学習の融合」(p16)

新規プロジェクト

「ふゆみずたんぼの実践研究」(p17)

「次世代エコチャレンジャー養成活動」(p17)

(「いばらきエコ・ネットワーク」は、来期はこの領域)



## 2050年の視点からCO<sub>2</sub>を減らす方法を、生活者とともに考える

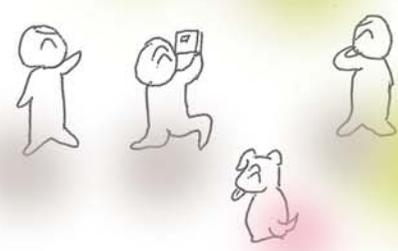
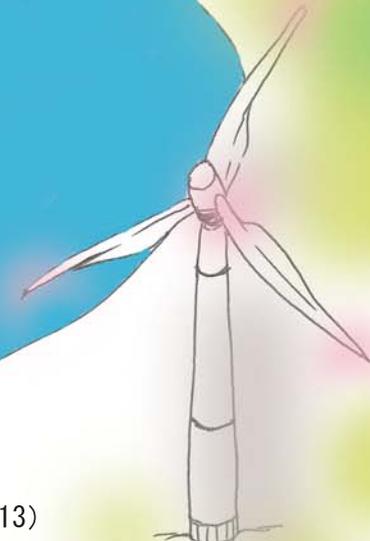
「東北復興を契機に日本を持続可能な社会へ」(p13)

「被災地再生可能エネルギー」(p13)

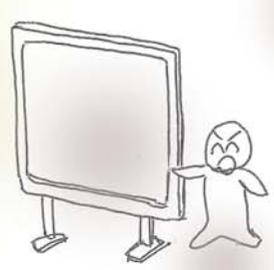
「学生と地域がともに取り組む環境ビジネスの創出」(p13)

新規プロジェクト

「被災地いわきにおける再生可能エネルギーを核とした地域づくりに資する人材育成」(p17)



7)  
及促進」(p9)



境の再生」(p17)



**W-BRIDGE**  
プロジェクトマップ